

Ⅲ 【本検査】教科別の結果

1 国 語 (本検査)

(1) 出題内容等

学習指導要領の趣旨に沿って、基礎的・基本的な〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕が適切にみられるようにした。

大問一（聞き取り検査）は、織田さんが鈴木さんに自身が驚いた体験について話している場面を聞き、会話の流れを正しく捉え、自分の考えを他者に分かりやすく伝えるための工夫や、互いの考え方の違いについて考える問題である。大問四（説明的な文章）(5)は同じ著作の関連する箇所を、また、大問五（文学的な文章）(6)及び大問六（古典）(5)は、それぞれの文章を読んだ生徒の話し合いの場面を、別資料として提示し、複数資料の分析を通じてさらに深く読み解き、適切に自分の考えを表現する力をみる問題である。

大問七（条件作文）は、「知識」と「知恵」の言葉の意味を踏まえ、「知恵」について自分の考えを整理し、具体例を挙げて説明することで、説得力のある文章となるように工夫して書く問題である。

(2) 正答率の概況

答案数=33,266

領 域 (事 項)	問 題・配 点	正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	二、三、四(1) 18点	59.0
情報の扱い方に関する事項	四(5)、五(6)、六(5)(b) 21点	18.7※
我が国の言語文化に関する事項	六(1)(2)(3)(4)(5)(a) 14点	60.8
話すこと・聞くこと	一 8点	83.0
書くこと	七 12点	41.4※
読むこと	四(2)(3)(4)(6)、五(1)(2)(3)(4)(5) 27点	60.8

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結果の説明

全体の平均点は50.4点で、前年度と比べて2.5点高くなった。

領域（事項）別の正答率は、「話すこと・聞くこと」が83.0%と最も高く、次いで、「我が国の言語文化に関する事項」及び「読むこと」が60.8%であった。一方、「情報の扱い方に関する事項」が18.7%と最も低かった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題は、大問二「漢字（読み）」(1)「粘（り）〔ねば〕」、大問一(3)「会話の流れの理解」、大問六(1)「歴史的仮名遣い」、大問五(1)「登場人物の心情の理解」であった。一方、正答率が低かった問題は、大問四(5)(b)「文章の内容の理解と表現」、大問六(5)(b)「文章の内容の理解と表現」及び大問五(6)(a)Ⅱ「登場人物の心情の理解」であった。記述による解答の正答率が低いのは、例年と同じ傾向であり、中学生対象の全国学力・学習状況調査の結果とも一致しており、引き続き、課題であると言える。

無答率が高かった問題は、大問六(5)(b)「文章の内容の理解と表現」、大問五(6)(b)「登場人物の心情の理解と表現」及び大問四(5)(b)「文章の内容の理解と表現」であった。

(4) 問題の内容

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
			選択	短答	記述			
一	(1)	放送による聞き取り 自分が驚いた体験 について話す場面	会話の流れの理解	<input type="radio"/>		83.0	0.0	
	(2)		会話の流れの理解	<input type="radio"/>		80.2	0.1	
	(3)		会話の流れの理解	<input type="radio"/>		94.3	0.1	
	(4)		会話の流れを受けてのまとめ	<input type="radio"/>		74.5	0.3	
二	(1)	漢字 (読み)	粘(り) [ねば]		<input type="radio"/>	98.0	0.2	
	(2)		惜別 [せきべつ]		<input type="radio"/>	29.3	6.8	
	(3)		示唆 [しさ]		<input type="radio"/>	71.9	4.2	
	(4)		諮(る) [はか]		<input type="radio"/>	38.4	20.0	
三	(1)	漢字 (書き)	束		<input type="radio"/>	82.4	10.5	
	(2)		染		<input type="radio"/>	91.1	2.5	
	(3)		往来		<input type="radio"/>	48.7	20.3	
	(4)		千秋		<input type="radio"/>	37.7	22.5	
四	(1)	説明的な文章 『「今、ここ」から考える社会学』	品詞の識別	<input type="radio"/>		33.5	0.4	
	(2)		文章の内容の理解	<input type="radio"/>		72.8	1.0	
	(3)		文章の内容の理解	<input type="radio"/>		37.6	0.5	
	(4)		文章の内容の理解	<input type="radio"/>		22.8	1.4	
	(5)		(a)	文章の内容の理解	<input type="radio"/>		41.1	2.5
			(b)	6点			3.8	
				1~5点		<input type="radio"/>	11.2	
無答					41.5			
(6)	文章の構成の理解	<input type="radio"/>		42.1	4.0			
五	(1)	文学的な文章 『銀しやり』	登場人物の心情の理解	<input type="radio"/>		92.5	0.7	
	(2)		登場人物の心情の理解	<input type="radio"/>		78.1	1.1	
	(3)		文章の内容の理解	<input type="radio"/>		70.6	1.7	
	(4)		登場人物の心情の理解	<input type="radio"/>		45.2	2.3	
	(5)		文章の内容の理解	<input type="radio"/>		85.4	4.0	
	(6)		(a)	I		<input type="radio"/>	24.1	34.0
			II		<input type="radio"/>	10.7	27.5	
	(b)		4点				13.2	
			1~3点			<input type="radio"/>	9.0	
無答					48.7			
六	(1)	古典 『江戸笑話集』	歴史的仮名遣い		<input type="radio"/>	93.4	3.5	
	(2)		文章の内容の理解	<input type="radio"/>		36.4	4.5	
	(3)		文章の内容の理解	<input type="radio"/>		57.0	6.4	
	(4)		文章の内容の理解	<input type="radio"/>		45.0	8.1	
	(5)		(a)	漢文訓読法	<input type="radio"/>		72.2	7.5
			(b)	4点			5.1	
	1~3点					<input type="radio"/>	7.8	
無答					68.1			
七	12点	条件作文 「知識」と「知恵」について	条件を踏まえて書く二段落構成の作文 ・前段は「知識」という言葉を使って、「知恵」とはどのようなものか書く ・後段は「知恵」に対する自分の考えを、具体例を挙げながら書く		<input type="radio"/>	15.6		
	8~11点					16.7		
	4~7点					24.6		
	1~3点					8.1		
	無答						9.7	

2 社 会 (本検査)

(1) 出題内容等

各分野において、「基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができる問題」を出題した。

「現代社会の諸課題に対する関心や理解の程度をみることができる問題」を多く出題した。具体的には、大問**1(4)**、大問**3(3)(5)**、大問**6(3)**、大問**8(2)**である。

「諸資料を活用し、社会的事象を判断・分析する力をみることができる問題」を多く出題した。具体的には、大問**1(2)**、大問**2(2)**、大問**3(5)**、大問**6(3)**、大問**8(2)**である。

「社会的事象について、自らの思考を表現する力をみることができる問題」を、地理的分野、歴史的分野、公民的分野から1問ずつ出題した。具体的には、大問**3(3)**、大問**4(4)**、大問**6(2)**である。

総合問題と歴史的分野において、できごとなどを年代の古いものから順に並べ替える問題を、総合問題から1問、歴史的分野から1問出題した。具体的には、大問**1(3)**、大問**5(4)**である。

(2) 正答率の概況

答案数=33,219

分 野 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点		正答率 (%)	
総 合	総 合 問 題	1	12点	53.2	
地理的分野	日 本 地 理	2	15点	60.0	59.2※
	世 界 地 理	3	16点	58.3※	
歴史的分野	前 近 代 史	4	16点	56.7※	57.6※
	近 ・ 現 代 史	5	15点	58.4	
公民的分野	国民生活と経済・社会	6	10点	44.1※	62.2※
	日本の政治制度	7	10点	70.8	
	国 際 社 会	8	6点	71.6	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結果の説明

全体の平均点は57.5点で、前年度と比べて3.0点高くなった。

分野・内容別の正答率は、公民的分野の「国際社会」が71.6%と最も高く、公民的分野の「国民生活と経済・社会」が44.1%と最も低かった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題は、大問**7(1)**「刑事裁判」、大問**2(3)**「カルデラ」及び大問**5(3)**「世界恐慌」であった。一方、正答率が低かった問題は、大問**4(4)**「鎌倉幕府の衰退に関する記述」、大問**6(2)**「財政政策に関する記述」及び大問**1(3)**「1960年代以降の世界のことがらの並び替え」であった。

無答率が高かった問題は、大問**1(4)**「環境アセスメント」、大問**4(4)**「鎌倉幕府の衰退に関する記述」及び大問**6(2)**「財政政策に関する記述」であった。

(4) 問題の内容

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
			選択	短答	記述				
1	(1)	総合問題	千葉県太平洋側の海岸地形と海上地形		○		86.3	0.0	
	(2)		千葉港と成田空港の貨物の取扱いの表の読み取り		○		49.1	0.2	
	(3)		1960年代以降の世界のことがらの並び替え		○		24.3	0.2	
	(4)		環境アセスメント			○	53.1	28.1	
2	(1)	日本地理	政令指定都市について及び県名と県庁所在地名の違い		○		38.3	0.0	
	(2)		政令指定都市のある県の人口、人口密度、製造品出荷額等、農業産出額、海面漁業漁獲量に関する資料の読み取り		○		52.0	0.2	
	(3)		カルデラ			○	88.1	6.6	
	(4)		①	地形図の方位や地図記号、標高の読み取り		○		66.3	0.1
			②	地形図の指定した場所の面積		○		55.1	0.3
3	(1)	世界地理	ミラー図法と正距方位図法の違い		○		47.3	0.0	
	(2)		雨温図の読み取り		○		67.9	0.2	
	(3)		4点	冷帯地域の暮らしについての工夫に関する記述				49.8	/
			1~3点					8.2	
			無答					7.3	
	(4)		ヨーロッパ州の言語分布		○		49.9	0.1	
(5)	ロシア、中国、インド、ブラジル、南アフリカ共和国、日本の発電量、一人あたりのGNI、温室効果ガスの排出量及び一人あたりの二酸化炭素排出量に関する資料の読み取り		○		72.6	0.2			
4	(1)	前近代史	戦国時代、平安時代に関することがら		○		66.4	0.0	
	(2)		平安時代の文化に関することがら		○		84.9	0.0	
	(3)		19世紀のことがら		○		54.5	0.3	
	(4)		4点	鎌倉幕府の衰退に関する記述				16.1	/
			1~3点					11.2	
			無答					18.0	
(5)	防人			○	55.9	14.7			
5	(1)	近・現代史	第一次世界大戦中のことがら		○		56.9	0.1	
	(2)		ベルサイユ条約			○	69.1	5.2	
	(3)		世界恐慌		○		87.4	0.1	
	(4)		第二次世界大戦後のことがらの並び替え		○		29.0	0.2	
	(5)		高度経済成長（池田内閣）と四大公害病		○		49.4	0.2	
6	(1)	経済	需供曲線の読み取り		○		50.9	0.2	
	(2)		4点	財政政策に関する記述				13.8	/
			1~3点					15.8	
			無答					16.2	
(3)	経済成長率に関する資料の読み取り		○		59.8	0.5			
7	(1)	政治	刑事裁判		○		92.3	0.3	
	(2)		被疑者			○	47.1	4.8	
	(3)		司法制度改革（日本の裁判制度）		○		73.0	0.4	
8	(1)	国際	国家の領域		○		67.5	0.5	
	(2)		政府開発援助に関する資料の読み取り		○		75.6	1.0	

3 数 学 (本検査)

(1) 出題内容等

大問1は、各領域の基本的な問題である。

大問2は、関数 $y = ax^2$ からの出題であり、与えられた条件を満たす座標、直線の傾き及び切片を求める問題である。

大問3は、2つの三角形が合同であることを証明するとともに、図形の性質を利用して三角形の面積を求める問題である。

大問4は、スクリーンに投影される影に関する会話文や図から、情報を正確に読み取り、会話文中の穴埋めをしたり、文字を用いた式で表現したりする問題である。

(2) 正答率の概況

答案数=33,265

領 域 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点		正答率 (%)	
数 と 式	正の数と負の数	1(1)①	5点	95.7	78.9
	文字を用いた式	1(1)② (2)①	8点	80.7	
	正の数の平方根	1(1)③	5点	70.8	
	二次方程式	1(2)②	3点	66.8	
図 形	平面図形	1(6)①② (7)②、3(1)	14点	58.2	51.1※
	空間図形	1(4)①② (7)①	9点	62.1	
	図形の合同	3(2)	6点	14.4※	
	図形の相似	3(3)、4(1)①②	11点	42.9	
関 数	一次関数	4(1)③ (2)(a)(b) (3)	12点	15.1	28.1
	関数 $y = ax^2$	2(1)①② (2)	15点	45.4	
データの活用	不確定な事象の 起こりやすさ	1(5)①②	6点	54.5	62.0
	標本調査	1(3)①②	6点	69.4	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結果の説明

全体の平均点は51.9点で、前年度と比べて4.9点高くなった。

領域・内容別の正答率は、数と式の「正の数と負の数」が95.7%と最も高く、図形の「図形の合同」が14.4%と最も低かった。

また、次の表にあるように、数と式の領域では、大問1(1)①「正の数と負の数（四則計算）」の正答率が最も高く、大問1(2)②「二次方程式（解の公式）」の正答率が最も低かった。

図形の領域では、大問1(4)①「空間図形（展開図）」の正答率が最も高く、大問3(3)「図形の相似（相似の応用）」の正答率が最も低かった。

関数の領域では、大問2(1)①「関数 $y = ax^2$ （点の y 座標）」の正答率が最も高く、大問4(3)「一次関数（2点間の長さ）」の正答率が最も低かった。

データの活用の領域では、大問1(5)①「不確定な事象の起こりやすさ（確率）」の正答率が最も高く、大問1(5)②「不確定な事象の起こりやすさ（確率）」の正答率が最も低かった。

無答率が高かった問題は、大問4(2)(a)(b)「一次関数（点の y 座標）」、大問4(3)「一次関数（2点間の長さ）」であった。

(4) 問題の内容

問			問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)
					選択	短答	記述		
1	(1)	①	数と式	正の数と負の数 (四則計算)		○		95.7	0.1
		②		文字を用いた式 (単項式の乗法と除法)		○		76.6	1.3
		③		正の数の平方根 (平方根を含む式の計算)		○		70.8	3.2
	(2)	①	数と式	文字を用いた式 (相等関係)	○			84.8	0.2
		②		二次方程式 (解の公式)		○		66.8	5.2
	(3)	①	データ	標本調査 (全数調査と標本調査)	○			68.6	0.1
		②		標本調査 (推定)		○		70.2	4.0
	(4)	①	図形	空間図形 (展開図)	○			93.4	0.1
		②		空間図形 (最短距離)		○		51.9	19.1
	(5)	①	データ	不確定な事象の起こりやすさ (確率)		○		78.2	4.7
		②		不確定な事象の起こりやすさ (確率)		○		30.8	10.7
	(6)	①	図形	平面図形 (円周角の定理)		○		88.6	1.3
		②		平面図形 (円周角の定理)		○		38.9	7.1
	(7)	①	図形	空間図形 (円錐の展開図)		○		41.1	3.0
②		平面図形 (作図)				○	16.8	35.8	
2	(1)	関数	関数 $y = ax^2$ (点のy座標)		○		80.0	3.1	
			関数 $y = ax^2$ (直線の傾きと切片)		○		44.6	15.1	
	(2)	関数 $y = ax^2$ (点のx座標)		○		11.5	42.7		
3	(1)	図形	平面図形 (二等辺三角形)	○			88.3	0.2	
	(2)		図形の合同 (三角形の合同の証明)			○	11.7		
						○	5.3		
								29.4	
(3)	図形の相似 (相似の応用)		○		5.7	42.7			
4	(1)	図形	図形の相似 (三角形の相似)		○		89.7	2.7	
			図形の相似 (三角形の相似)		○		33.4	4.5	
		関数	一次関数 (点のy座標)		○		47.6	19.2	
	(2)		(a)	一次関数 (点のy座標)		○		4.7	54.9
			(b)	一次関数 (点のy座標)		○		5.0	57.7
	(3)	一次関数 (2点間の長さ)		○		3.1	51.0		

4 理 科 (本検査)

(1) 出 題 内 容 等

学習指導要領に基づいて、基礎的・基本的な知識・技能、科学的なものの見方や思考力、判断力、表現力等を身に付けているかをみることができるようにした。本年度も「観察・実験を題材とした問題」、「身近な生活に関わりのある問題」を出題した。小問集合以外では、「観察・実験を題材とした問題」は大問**2・3・4・5・6・7・8**、「身近な生活に関わりのある問題」は大問**2・7・9**である。思考力、判断力、表現力等をみる問題として、理由を自分の言葉で説明する記述式の問題や、作図やグラフの問題を取り入れている。記述式は、昨年度の本検査4問に対し、本年度の本検査は2問である。作図やグラフは、昨年度の本検査と同様に2問である。

(2) 正答率の概況

答案数=33,218

分 野・内 容		問 題・配 点	正答率 (%)
第 1 分 野	物 理	身近な物理現象	1(1) 3点 71.3
		電流とその利用	4 10点 64.9
		運動とエネルギー	6 12点 39.9
	化 学	化学変化とイオン	1(2) 3点 85.3
		身の回りの物質	2 10点 78.2
化学変化と原子・分子		8 12点 52.7※	
第 2 分 野	生 物	いろいろな生物とその共通点	1(3) 3点 90.1
		生物の体のつくりと働き	3 10点 67.2
		自然と人間	9 12点 61.8
	地 学	気象とその変化	1(4) 3点 76.7
		大地の成り立ちと変化	5 10点 43.8
地球と宇宙		7 12点 44.2	

※の数値は、大問**8(4)**の正答率を除いて計算している。

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は59.1点で、前年度と比べて1.6点低くなった。

分野・内容別の正答率は、大問**1**を除くと、第1分野・化学の大問**2**「身の回りの物質」が78.2%で最も高かった。一方、第1分野・物理の大問**6**「運動とエネルギー」が39.9%と最も低かった。なお、大問**1**は各分野の基礎的・基本的な知識を問う小問集合であり、正答率の平均が80.9%であった。

また、次の表にあるように、大問**1**を除く小問で正答率が高かった問題は、大問**2(2)**「気体の名称」、大問**3(4)**「光合成における物質の出入り」及び大問**3(3)**「ヨウ素デンプン反応」であった。一方、正答率が低かった問題は、大問**5(4)**「傾いた地層の対比〔作図〕」、大問**7**の**(4)**「日食のモデル化〔計算〕」及び大問**6(3)**「浮力〔作図〕」であった。

無答率が高かったのは、大問**6(3)**「浮力〔作図〕」、大問**5(4)**「傾いた地層の対比〔作図〕」及び大問**8(2)**「金属と結びつく酸素の質量」であった。

(4)問題の内容

問	問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
		選択	短答	記述			
1	(1) 光と音の性質	○			71.3	0.1	
	(2) 非電解質の物質		○		85.3	2.6	
	(3) 脊椎動物と無脊椎動物	○			90.1	0.0	
	(4) 寒冷前線		○		76.7	2.6	
2	(1) 気体の性質の調べ方	○			78.6	0.0	
	(2) 気体の名称	○			92.6	0.0	
	(3) 二酸化炭素の性質	○			71.3	0.1	
	(4) 酸素の発生方法	○			70.2	0.1	
3	(1) 光合成の対照実験			○	47.5	11.5	
	(2) 顕微鏡の扱い方	○			49.4	0.0	
	(3) ヨウ素デンプン反応		○		85.8	2.8	
	(4) 光合成における物質の出入り	○			86.2	0.1	
4	(1) オームの法則	○			80.6	0.1	
	(2) 電流が磁界から受ける力	○			66.3	0.1	
	(3) 電磁誘導		○		68.5	8.0	
	(4) 検流計の指針の振れ方	○			44.2	0.5	
5	(1) 堆積岩	○			65.7	0.4	
	(2) 示準化石	○			57.5	0.1	
	(3) 水平な地層の対比	○			46.2	0.7	
	(4) 傾いた地層の対比〔作図〕			○	5.8	15.6	
6	(1) 水圧	○			71.1	0.2	
	(2)	① 力の大きさとばねの伸び〔計算〕		○		40.7	5.1
		② 浮力〔計算〕		○		30.3	8.6
	(3) 浮力〔作図〕			○	17.6	27.0	
7	(1) 衛星	○			83.2	0.1	
	(2) 月の満ち欠け	○			39.4	0.8	
	(3) 日食の仕組み	○			42.3	0.5	
	(4) 日食のモデル化〔計算〕		○		12.0	10.5	
8	(1) 化学反応式		○		47.2	9.7	
	(2) 金属と結びつく酸素の質量			○	37.9	14.2	
	(3) 反応するマグネシウムと酸素の質量比〔計算〕	○			73.1	1.4	
	(4) 酸素と反応していない銅の質量〔計算〕		○		***	***	
9	(1) 生物どうしのつながり		○		51.4	2.8	
	(2) 生態系における生物の関係	○			80.3	1.8	
	(3) 生態系での生物の数量的関係	○			72.3	3.0	
	(4) 生態系内での炭素の移動	○			43.0	3.7	

※ 大問8(4)については、受検者全員に得点を与えたため「***」で表記。

5 英 語 (本検査)

(1) 出題内容等

学習指導要領の趣旨に沿って、基礎的・基本的な〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕をみることができるようにした。

大問4 (リスニング) は、英語の文章を聞き、その要点を捉えることができるかをみる問題である。聞いた内容を理解したうえで、メモの空欄を補う形式となっている。

大問5は、基礎的な語彙や表現について知識及び技能をみる問題である。(3)(4)(5)については、文構造や文法事項を正しく用いて正しい語順で文を構成することができるかをみる問題となっている。

大問6は、英作文問題で、絵の中の人物の台詞を英語で適切に表現する問題であり、実践的なコミュニケーションを意識した問題となっている。

大問7(1)③及び大問8(2)は、英文から必要な情報を正しく読み取り、内容を理解したうえで「思考・判断」し、適切に「表現」する問題となっている。

(2) 正答率の概況

答案数=33,266

領 域 ・ 内 容		問題・配点	正答率 (%)	
聞くこと (話すこと)	リスニング (対話を聞いて答える)	1 9点	81.4	64.3
	リスニング (聞いて絵を見て答える)	2 6点	59.1	
	リスニング (対話やまとまりのある文章を聞いて答える)	3 6点	54.1	
	リスニング (まとまりのある文章を聞いて答える)	4 6点	54.3	
読むこと (話すこと)	発表原稿、広告等の読解	7 21点	59.5	56.1※
	長い文章の読解	8 17点	44.8※	
	対話文の読解	9 12点	64.4	
書くこと (話すこと)	文法及び文構造	5 15点	56.7	51.7※
	英作文 (絵を見て状況に合った会話を完成させる)	6 8点	39.2※	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結果の説明

全体の平均点は56.4点で、前年度と比べて8.8点高くなった。

領域・内容別の正答率は、聞くこと(話すこと)の「リスニング(対話を聞いて答える)」が81.4%と最も高かった。一方、書くこと(話すこと)の「英作文」が39.2%と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問1 No.1, No.2「対話の最後の発話に対する応答を選ぶ」及び大問7(2)①「内容と合う英語を選ぶ」であった。一方、正答率が低かったのは、大問8(2)「内容を踏まえ、空所に英語を補充する」及び大問8(5)「内容と合う英語を選ぶ」であった。

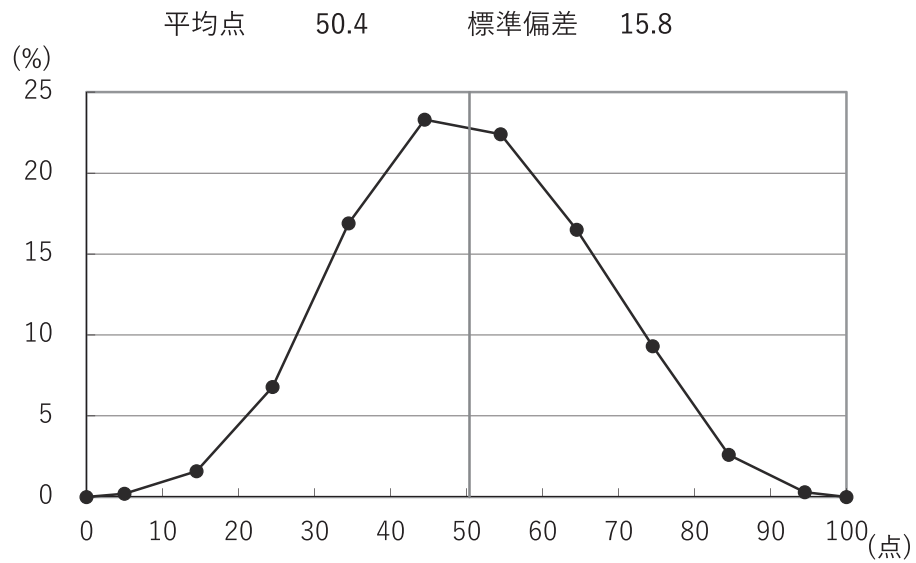
無答率が高かったのは、大問8(2)「内容を踏まえ、空所に英語を補充する」及び大問6(2)「英作文(絵を見て状況に合った会話を完成させる)」であった。

(4) 問題の内容

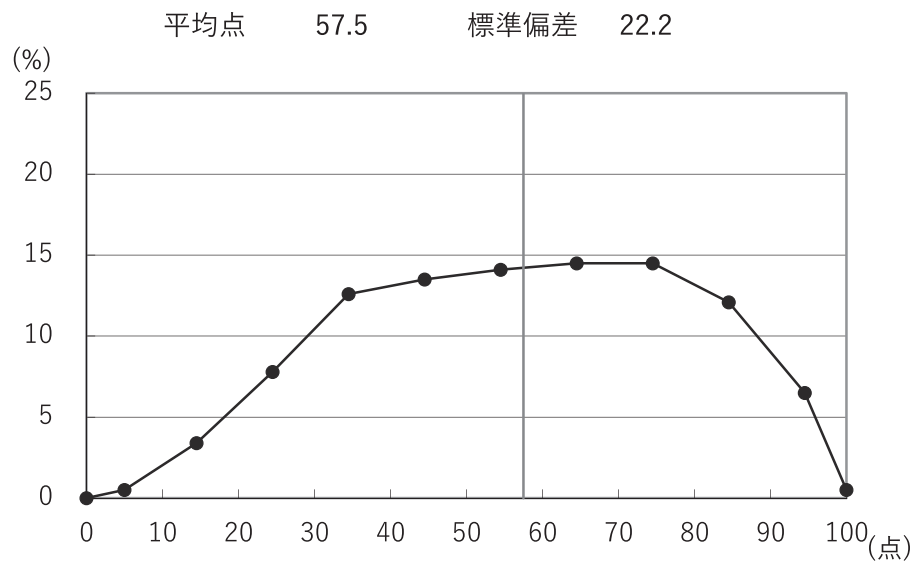
問	問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
		選択	短答	記述				
1	No. 1	リスニング	対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○		88.8	0.0	
	No. 2		対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○		82.8	0.1	
	No. 3		対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○		72.5	0.1	
2	No. 1	ニ	対話と質問を聞いて、答えとなる絵を選ぶ	○		75.2	0.0	
	No. 2		文章と質問を聞いて、答えとなる絵を選ぶ	○		42.9	0.1	
3	No. 1	ン	対話と質問を聞いて、答えとなる英語を選ぶ	○		51.9	0.1	
	No. 2		文章と質問を聞いて、答えとなる英語を選ぶ	○		56.3	0.2	
4	①	グ	文章を聞いて、その内容を表すメモの空欄に入る英語を選ぶ	○		65.5	0.2	
	②		文章を聞いて、その内容を表すメモの空欄に入る英語を選ぶ	○		43.0	0.2	
5	(1)	文法・文構造	動詞 know を過去分詞形 known にする		○	70.8	2.9	
	(2)		基数詞 five を序数詞 fifth にする		○	64.8	5.2	
	(3)		語順整序 (What is the most popular of all the animals ~?)	○		52.2	0.2	
	(4)		語順整序 (Can you tell me which bus I should take to ~?)	○		36.1	0.2	
	(5)		語順整序 (I'm going to buy the book you told me about.)	○		59.7	0.6	
6	(1)	英作文	英作文(絵を見て状況に合った会話を完成させる)		○	4点	25.8	
						1~3点	31.3	
						無答		9.7
	(2)		英作文(絵を見て状況に合った会話を完成させる)		○	4点	17.6	
						1~3点	38.8	
						無答		13.5
7	(1)	発表原稿・広告等の読解	内容と合うグラフを選ぶ	○		69.1	0.1	
			本文中の空所に入る英語を選ぶ	○		46.4	0.1	
			内容と合う英語を補充する		○	37.1	10.0	
			内容と合う英語を選ぶ	○		42.1	0.6	
	(2)		内容と合う英語を選ぶ	○		82.1	0.2	
			内容と合う英語を選ぶ	○		70.3	0.2	
	③	内容と合う英語を選ぶ	○		69.5	0.3		
8	(1)	長文読解	文脈に合わせて英語を適切な場所に補充する	○		57.9	0.5	
	(2)		内容を踏まえ、空所に英語を補充する		○	5点	7.2	
						3~4点	10.9	
						1~2点	4.8	
						無答		45.0
	(3)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○		63.2	0.7	
	(4)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○		53.1	1.1	
(5)	内容と合う英語を選ぶ	○		33.4	2.1			
9	(1)	対話文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ	○		78.8	0.5	
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○		70.2	0.7	
	(3)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○		50.7	1.1	
	(4)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○		57.8	1.6	

IV 【本検査】受検者の得点分布

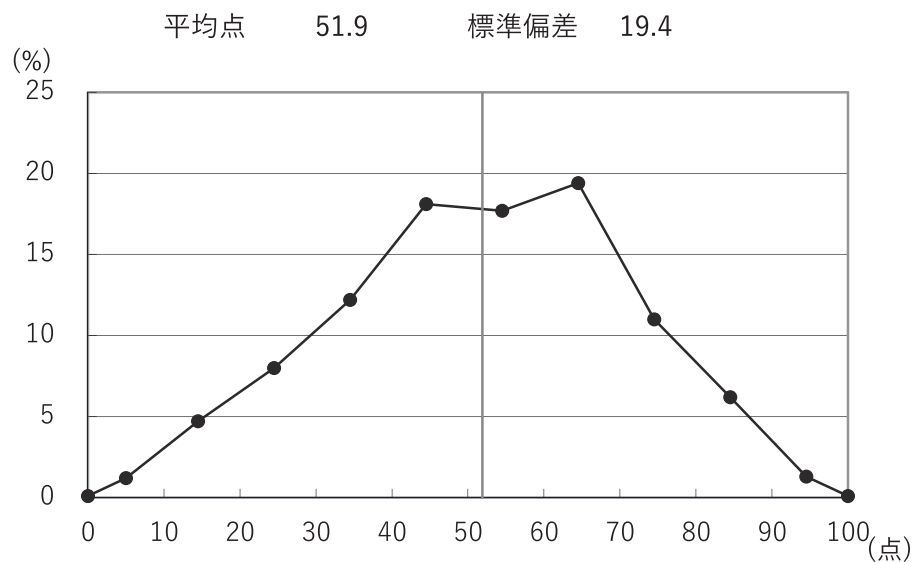
1 国語



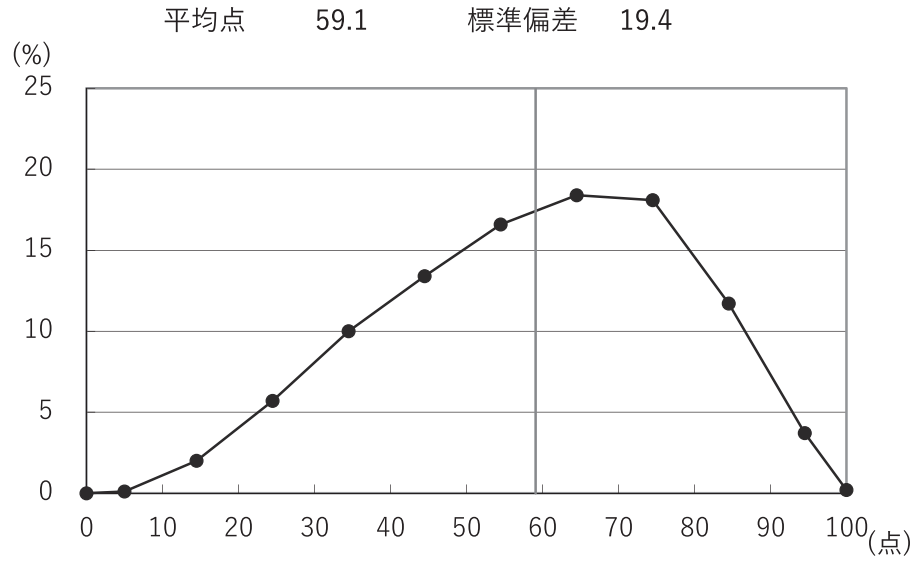
2 社会



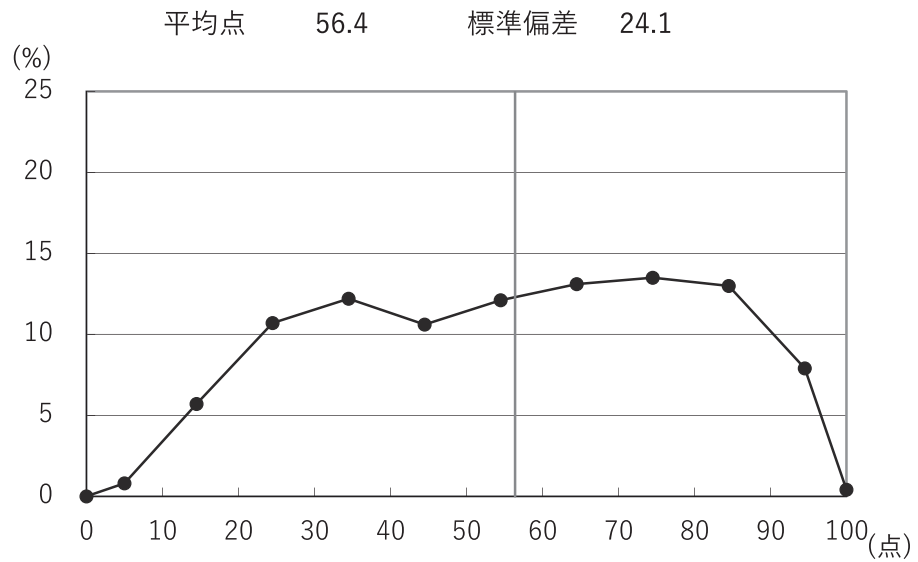
3 数学



4 理科



5 英語



6 5教科

